

いちばん

書店員がいま一番売りたい本

読書専門 MARUZEN 函館栄好堂 JUNKUDO 戸田書店

やけに植物に詳しい僕の街のスギマ植物図鑑

瀬尾 一樹 / 大和書房 / 1,650円
道ばたの植物たちの魅力がいっぱい。何気なく見ている草だけど、名前が知らない…。そんな影の薄い植物たちをじっくり観察したくなる。たのしいうんちく話もたくさんあって、今まで見ていた世界がグリーンと広がる本。オラももっと草が知りたえ。
(Junk堂書店 松山三越店 / 社会担当 / inu)

わたしの美しい庭

凧良 ゆう / ポプラ社 / 814円
人は弱さや脆さ、強さを全部持っている多面的な存在であるからこそ愛おしいのだと思わせてくれます。人にはその人の歴史があって、それは決して他人の理解が及ぶようなものではない。往々にして見えていない部分に価値は潜むもの。だからこそ私たちは他人を尊重しなければいけないのだと思わせる作品です。
(丸善 丸の内本店 / 文庫担当 / S.F)

その島のひとたちは、ひとの話をきかない

森川 すいめい / 青土社 / 1,540円
サブタイトルからは自殺防止本のような印象を受けますが「誰もが自分らしく、ラクに生きられる環境とは？」という、さらに広い問題へのヒントが得られます。自殺希少地域の工夫のエッセンスが抽出されています。時々「くすっ」と笑ってしまうエッセイ的文章なので、スルスルと読めちゃいます。
(Junk堂書店 大泉学園店 / 人文書担当 / M)

四畳半タイムマシンブルース

森見 登美彦 / KADOKAWA / 704円
学生アパート下鴨幽水荘の自室209号室で「クーラーのお通夜」がとりおこなわれた。8月12日タイムマシンによってやってきたのは誰なのか。クーラーのリモコンをめくり、タイムマシンに乗って行ったりきたり。さて、世界はどうなるのでしょうか。
(Junk堂書店 鹿児島店 / 社会担当 / S.S)

鳥山石燕画図百鬼夜行全画集

鳥山 石燕 / KADOKAWA / 748円
古くから日本人の近くに居て暮らしている妖怪。水木しげる先生も好きですが、江戸時代から人々の傍にいた妖怪たちという感じでこちらも大好きです。かばんに入るサイズですのでポケット図鑑としても使えます！
(Junk堂書店 西宮店 / 文芸・文庫・新書担当 / まめぞう)

あなたのセックスが楽しくないのは資本主義のせいかもしれない

K. R. ゴドシー / 河出書房新社 / 2,090円
思わず手にとってしまういいタイトル。フェミニズムに関する書籍はどうしてもフェミニズムに関心がある人の手にしか届かないという書店員としてのもどかしさがあります。このタイトルはそのあたり秀逸。手に取っちゃう。中身を開くとあなたの知らない社会主義世界が開けてくる。
(Junk堂書店 近鉄あべのハルカス店 / 文芸・文庫担当 / Y.I)

テロルの決算 新装版

沢木 耕太郎 / 文藝春秋 / 781円
1960年に起こった政治家の暗殺事件を取り上げたノンフィクション。犯人と被害者の両方の生い立ちから事件発生までを細かく描き、なぜ事件が起こったのかを明らかにしていきます。
「今」だからこそ読んでおきたい一冊です。
(丸善 松本店 / 文具担当 / Y.T)

センス・オブ・ワンダー

レイチェル・カーソン / 新潮社 / 649円
エッセイでもあり、身の回りの自然へ目を向けるきっかけにもなる一冊です。『センス・オブ・ワンダー』つまり「不思議だなあ」と感じる感覚を揺り起こしてくれます。文章を読んでもよし、写真を眺めてもよし。
(Junk堂書店 松山三越店 / 医学書担当 / TK)

ベルカ、吠えないのか？

古川 日出男 / 文藝春秋 / 704円
「犬に感動する」小説は数多あろうとも、読者である私自身が「犬になった」小説はこれ以外ない。作中「イヌよ、イヌよ、お前たちはどこにいる？」と呼びかけられるたび、読者は登場する犬となり「20世紀＝戦争の世紀」を駆け回ることになる。混迷を極める現代、生存するにはこの本を読んで犬の本能を取り入れるしかない。犬になれば。
(MARUZEN&Junk堂書店 渋谷店 / 人文書担当 / K.U)

わたしの献立日記

沢村 貞子 / 中央公論新社 / 755円
日々の暮らしの中のちょっとした工夫次第で気持ちに余裕ができた、幸せに感じたり、生活が楽しくなります。毎日ではできなくてもたまに実践してみるのもいいと思います。一日中台所に立ったり、一日中本を読んだり、一日中何もしなかったり。なにか好きな事だけをする日を見つけて下さい。
(丸善 新宿京王店 / 文芸担当 / YS)

大ピンチずかん

鈴木 のりたけ / 小学館 / 1,650円
裏返った傘に雨水をためながら歩いている子、みんなで後ろ向きに歩いて帰るランドセルチーム、そんな子たちを見かけてはいつも元気をもらってます。彼らに生活の知恵と勇気をあげたい！……いや、大人こそ、手にとってほしいかも。
(Junk堂書店 立川高島屋店 / 語学書 / らんらん)

掬えば手には

瀬尾 まいこ / 講談社 / 1,595円
大学生の梨木匠はエスパーのように人の心が読めるという特殊能力を持っている。でもその能力は人の気持ちになって考えるということ、その人がどうしてほしいのか想像することであり誰もがやろうと思えばできること。たくさんの方がそれに気づいたら、こんな時代でも優しさに溢れた世界に変わるのに。
(Junk堂書店 郡山店 / 文芸担当 / M.G)

不連続殺人事件

坂口 安吾 / 新潮社 / 572円
雑誌連載時に一緒に載っていた『読者への挑戦状』が収録されており、それも面白い。もちろん本編も面白い。会話のやり取りも今読んでも面白いのもすごい。すでに、様々語りつくされている作品ですが、この機会に是非、既読の方も、未読の方も。
(Junk堂書店 広島駅前店 / 注文担当 / F)

百年と一日

柴崎 友香 / 筑摩書房 / 1,540円
読み終わるのが勿体なくて、少しずつ、大切にちびちび読むという読書家にとってこの上ない喜びをお求めならぜひこの短編小説を。一つ一つの話がそれぞれ、何を書いて何を書かないか、文体だけでなく構造的にも意識的に「トリミング」されていて、何気ない物語がいつしか自分だけの特別な物語になります。あ、これって人生。
(Junk堂書店 三宮店 / 店長 / OH)

本屋さんのダイアナ

柚木 麻子 / 新潮社 / 693円
自分の人生に無くてはならない本はありますか？この本の登場人物達には、ある1冊の本が常に彼女たちの人生に寄り添ってくれています。本好きとしてそのことが羨ましく、「私にもそんな本あるかな」と真剣に考えると、まさしくこの本がそうかもしれない！と思いました。
(丸善 セブンパーク天美店 / 文具担当 / S)

他者と生きる リスク・痛い・死をめぐる人類学

磯野 真穂 / 集英社 / 990円
相反する情報や意見が氾濫し、閉鎖的な空気の中、大きな何かのみにこまれ、自分と社会・他者との関わり方がわからなくなった時に出会った本です。現代の人間関係の大部分が依存するデータや既存の枠、そこに甘んじる怠惰の向こうに他者や自分を見つけない、人や社会は変化することに希望を持ちたいと思いました。
(Junk堂書店 広島駅前店 / 雑誌担当 / S)

夢を売る百貨店 本日も完売御礼でございます

イミエ / 文響社 / 1,738円
眠っているときにしか訪れることができないドルグード夢百貨店。その百貨店に就職したベニーの、夢を巡る不思議で優しい物語。枕元に置いて、少しずつ読み進めてもらいたい。お布団のぬくぬくみたく温かい気持ちになれそう。その夜はきつとすてきな夢が見られるはず！！
(Junk堂書店 秋田店 / 文芸担当 / 735号)

思考のトラップ 脳があなたをダメす48のやり方

D. マクレイニー / 二見書房 / 1,870円
あなたの思考・意思・決断は本当にあなたのものだろうか。誰もが抱える呪いのような思い込みや誤解を痛快に叩きのめす、魅惑的インターネット社会において必携の一冊。
(丸善 仙台アエル店 / コミック担当 / メッポさん)

人間たちの話

柞刈 湯葉 / 早川書房 / 814円
『横浜駅SF』でおなじみの著者によるSF短編集。表題作のどこかクールな、しかし温かい視点。宇宙のラーメン屋という突飛な設定を成立させる説得力。透明人間が実際にいたら、という発想力。SFはちょっとねえへ、という方にこそおすすめ。
(Junk堂書店 三宮店 / 文庫・新書担当 / sa)

アーサー・マンデヴィルの不合理な冒険

宮田 珠己 / 大福書林 / 2,750円
旅エッセイなど、数多くの作品を刊行してきた宮田珠己氏による、奇妙奇天烈な冒険譚。一風変わった内容もさることながら、鬼才・網代幸介氏によるイラストの見事さと、装丁の素晴らしさは、一見の価値ありと言える傑作。とにかく一度実際に手に取って、見て、感じてほしい一冊。
(丸善 日本橋店 / 文芸担当 / K.I)

ここに来るまで忘れてた。

吉田 靖直 / 交通新聞社 / 1,650円
タモリ倶楽部で著者を見た。ヘンな人やな、気になってこの本を読んだ。雑誌『散歩の達人』の連載本で街ごとの思い出話エッセイ。内容は全てしよもなくてサイコー。たくさん笑った。唸る表現もあった。文章で笑わせられる人を尊敬する。読み終えてから著者のバンド、トリプルファイヤーを聴いたら本と中身同じやった。
(Junk堂書店 大阪本店 / 芸術担当 / ぶっぶのすけ)

模倣犯 1

宮部 みゆき / 新潮社 / 935円
秋の夜長にぴったりの作品です。全5巻で長いと思うかもしれませんが、そこは稀代のストーリーテラーの宮部みゆき、驚きの展開の連続で、続きが気になってしまい、止め時を失うこと請け合いです。そして、最後の犯人との手に汗握る対決は、物語を読むことの楽しさを教えてくれます。
(Junk堂書店 吉祥寺店 / 店長 / H.K)

心は孤独な狩人

C. マックラズ / 新潮社 / 2,750円
アメリカ南部のゴシックな雰囲気彩られた、なんだかよくわからないと脳に残る本。アメリカではすでに「現代の古典」。だが日本では知名度はまだだ。常に『キャッチャー・イン・ザ・ライ』の隣にあるべき本。本の装丁そのものが世界名作文学全集みたいで格好いい！！
(Junk堂書店 三宮店 / 社会担当 / P)

らいちょうころころ 立山室堂のライチョウ親子

戸塚学 写真 / 文一総合出版 / 1,320円
愛おしくなる可愛さ。立山室堂へ直接行って直にライチョウに出会えた人も、昨今の状況下、なかなか出かけられない人も、ほっこりと和める1冊です。ライチョウにまつわる疑問にも答えてくれていて、いつか、ライチョウに会いに出掛けたいかなるかもかもしれません。
(Junk堂書店 西宮店 / 社会科学書担当 / M2)

停電の夜に

ジュンパ・ラヒリ / 新潮社 / 693円
タイトルが綺麗で好ましいし、文字の流れもとても綺麗な、お気に入りの作品です。どの章も、登場人物の言葉や考え方がとても味わい深いです。9編の短編集なので読みやすく、つつい1日だけで読んでしまっていますが、たとえば夜ベッドに入る前に、何日かけて、1章ずつゆっくり読むのも楽しいだろうなあとと思います。
(Junk堂書店 三宮店 / 実用書担当 / H・K)

さざなみのよる

木皿 泉 / 河出書房新社 / 660円
さざなみです。波乱とか怒涛とかではなくて。主人公ナスマは癌で亡くなった。これは喪失に違いないけれど、彼女が生きていたってことでもあって。彼女の死が周囲にさざなみを立て、彼女が生きていたってことが幸せなさざなみを立てる。そう、ゆっくりとさざなみが沁み渡ってくるのを、あなたにも感じて欲しいのです。
(Junk堂書店 松坂屋高槻店 / 事務担当 / 朝)

スマホで取置・取寄せ **honto with**

店舗の在庫がわかる そのまま取置・注文OK

電話でのご注文は不要 ポイントカード機能も!

honto with